



詳しい内容は、市ホームページで読むことができます。

東京「銀座熊本館」で、宇城直送の新鮮野菜を販売 首都圏で宇城市産野菜のおいしさをアピール



銀座熊本館の外観

8/25 熊本県のアンテナショップ「銀座熊本館」で宇城市産野菜の販売が始まりました。同館では、毎日、県内産の野菜が販売されていますが、農産物が豊富にそろった「サンサンうきっ子宇城彩館」から新たに仕入れることで、さらに内容を充実させる狙い。毎週土曜に市の野菜などが店頭に並びます。入荷に協力した熊本県東京事務所の村崎美由紀さん(宇城市出身)は「首都圏の消費者から選ばれる商品にするためには、商品のストーリーや作り手の思いを、きちんと伝えることが重要。今後は加工品も紹介していきたい」と話しました。

「宇城市マイエンディングノート」活用説明会 今後の人生をより自分らしく過ごすために



説明会は今後も開催され、参加者にはエンディングノートが配られます。
☎ 高齢介護課 ☎ 32-1406

8/30 高齢者の皆さんが、現状や将来の希望を書き記すことで、今後の人生をより生き生きと過ごせるように市が発行したエンディングノートの活用説明会が市役所で開催され、約70人が参加しました。説明会では、一般社団法人「あなたの駆け込み寺」から、糸山公照さん、森輝和さん、藤井大慈さんの3人が宗教者、葬儀アドバイザー、弁護士というそれぞれの立場で終活やエンディングノートの活用法、財産管理などについて講演を行いました。講演後には、実際にエンディングノートに記入していくワークショップも行われました。



積極的に質問をしながら記入しました

市長とのランチタイム「うきうきランチミーティング」vol.15 人権擁護委員の皆さんが市長に活動報告



市長と笑顔で意見を交わす人権擁護委員の皆さん

8/30 生活に密着した意見や提案などを市政に生かそうと実施している、市長とのランチミーティング。この日は、宇土人権擁護委員協議会の遠山明美会長など10人が市長室を訪れました。宇城地区で活動を展開している人権擁護委員の皆さん。幅広い年代の人たちを対象に行っている人権啓発活動について、守田憲史市長に報告しました。守田市長が「皆さんの熱心な活動には本当に頭が下がります」と謝辞を述べると、委員の皆さんは「私たちの活動を広報紙に連載していただき、士気も上がっています」と話しました。

小川小で「愛校美化作業」と「親子ふれ愛 DAY」開催 楽しいイベントを支援のかたちに変えて

8/19 小川小(岡澤正康校長、仲道浩史朗 PTA 会長)で、PTA 活動の一環として「愛校美化作業」と「親子ふれ愛 DAY」が開催されました。

この日は、除草作業をしたり、親子でゲームをしたり、消防士による安全に行う花火教室などが開かれました。昼食には「お父さんが作る男のカレー」やかき氷も振る舞われ、子どもたちは夏休みの楽しいひとときを過ごしていました。

また、焼きそばやポテトなどの売上金は、県PTAを通して「平成30年7月豪雨」の義援金として寄付されました。



お父さんが作るカレーは、お母さんのよりも・・・？！

久具区生き物・微生物の観察会 身近な生き物から環境を学ぶ



自分で採取した微生物を顕微鏡で観察しました

8/20 松橋町久具区を流れる旧大野川や田の周辺に生息する生き物などの観察会があり、同区の小学生など約40人が参加しました。久具地域資源保全隊が、環境や農地を守る大切さを再認識してもらおうと毎年取り組んでいるもの。子どもたちは、捕獲したスジエビやゲンゴロウなどを図鑑と見比べ、水質検査も行いました。当尾小5年の福浦叶海さんは「動くミジンコを初めて観察した」と微笑み、ボランティアの溝上拓郎さん(松橋高教諭)は「生き物同士の関係を考えることで、生態系について関心を持ってくれたら」と話しました。

「少年よ大志を抱け」意見発表会 地域の夢や思いを、高校生が語る

8/23 高校生が地域に対する夢や思いを語る「少年よ大志を抱け」意見発表会が、ラポートで開催されました。

開会では、蒲島知事が自らの体験を交えながら「不可能を可能にするという自分の可能性を信じること」「夢を持つこと」「夢に向かって一歩踏み出すこと」と熱くメッセージ。続いて松橋支援学校、松橋高校、小川工業高校、熊本農業高校の生徒たちが、日頃の学習や活動を通じて、学び考えたことを発表。松橋支援学校の生徒たちは熊本地震での体験を基に災害時の対応について発表しました。



松橋支援学校の地震経験を生かした調査と実験の発表

おのへた
小野部田校区老人クラブが児童見守りサポーターに
地区を挙げて児童の見守りを



小野部田校区老人クラブの活動に感謝の気持ちを

9/10 児童の帰宅を見守る活動を始めた小野部田校区老人クラブ(約240人)に、小野部田小で同校PTAから簡易ベンチと旗が贈呈されました。これらは、廃品回収の収益で購入し、感謝の気持ちとして贈られたもの。毎週水曜に、同クラブの会員が当番制で6カ所に分かれ、交通事故や犯罪から児童たちを守ります。同クラブ会長の江村英子さん(87)は「あいさつを交わし合いながら取り組みたい」と意気込みを話しました。PTA会長の四海公貴さん(39)は「児童数が減り、1人で下校することもある。大変ありがたい」と感謝を述べました。

11/10(土)・11(日)「全国ブロック選抜 U-12体操競技選手権大会」出場の小細工華さんが表敬訪問
努力を重ね技術を磨き掴んだ全国大会



小細工華さん(中央)と遠藤知道コーチ(右)

9/11 岩手県盛岡市で開催される「全国ブロック選抜 U-12体操競技選手権大会」に出場する不知火小6年の小細工華さんが、平岡和徳教育長を表敬訪問しました。小細工さんは「全国大会出場は今までの練習の成果だと思う。とてもうれしい。オリンピックに出場するという夢をかなえるためにもこれからも練習を頑張っていきたい」と決意を述べました。平岡教育長は「夢を持つことは大事。努力してきた自分を信じ、コーチや家族など支えてくれた人たちに感謝の気持ちを持って、ぜひ頑張ってきてほしい」と激励しました。

複十字シール運動
「熊本県健康を守る婦人の会宇城支部」が結核予防を呼び掛け



約4カ月間、結核の予防について取り組みを行います

9/11 ひさこ 熊本県健康を守る婦人の会宇城支部の濱崎壽子支部長など3人が市役所を訪れ、守田憲史市長に結核予防への理解と複十字シール運動への協力を呼び掛けました。この運動で集まった募金は結核や肺がんなどの普及啓発、調査研究などに役立てられています。濱崎支部長は「現在も結核にかかる人は多く、特に高齢者は免疫力が低下していくので注意が必要。結核予防をさらに推進していきたい」と意気込みました。守田市長は「市でもしっかり周知し、結核への関心を高めて早期発見・早期治療につなげたい」と応えました。

第13回宇城市童話発表大会
表現豊かに堂々と発表

9/1 ラポートで市童話発表大会が行われ、市内の小学生18人が出場しました。子どもたちの読書力の向上を図り、豊かな心を育むことを目的に、市教育委員会が毎年開いているもの。これまでは、市内の各小学校から代表を選出していましたが、今回からは、図書館で予選会を開き、出場希望者約100人の中から代表を選出しました。

児童たちは、練習を重ね暗記した童話を持ち時間内で発表。声の強弱を工夫するなど感情を含めた表現豊かな発表は、訪れた観客を引き込んでいました。



発表終了後には、みんなで記念撮影

こども発掘調査隊
君も考古学者になろう

9/2 弥生時代後期の墓や土器が出土した松橋町の「大塚台地遺跡」で、親子ら約40人が発掘調査を体験しました。市教育委員会が市内の歴史に興味を持ってもらおうと企画したもので、初開催。

参加者たちはスコップで土器や石器の破片を掘り出し、観察しながら、はるか昔この地に暮らした人々の生活に触れていました。家族で訪れた山下虎哲君(8)は「土器の破片を見つけた。みんなで掘って楽しかった」とにっこり。兄たちと訪れていた森晴菜さん(11)は「発掘調査は初めて。見つかってうれしかった」と笑顔を見せました。



発掘作業にチャレンジ

「肥後豊野生姜」で販路拡大を目指す
旬の素材を全国へ

9/6 豊野町のアグリパーク豊野(福島賢一郎支配人)で、「肥後豊野生姜」の出荷がピークを迎えています。繊維が少なく柔らかな豊野産ショウガの販路を拡大しようとブランド化したもので、3年前から東京や大阪の百貨店、スーパーで売られています。需要も年々増加しており、出荷量は1年目17トンだったものが、2年目は23トンと増え、3年目の今年は30トンが見込まれています。福島支配人は「ブランド化することで知名度を上げ、他の生産物の底上げにもつながるよう取り組みたい」と意気込みを見せました。



大阪への出荷分を準備する福島支配人

美術館ワークショップ「膝小僧を刷りむいて」 各々の膝に個性溢れる顔

9/16 不知火美術館で、ワークショップ「膝小僧を刷りむいて」が開かれ、子どもから大人まで約20人が参加しました。

美術家の若木くるみさんを講師に、参加者は、水彩絵の具で自分の膝に顔を、すねの部分に体を描き、最後に全員の膝小僧の絵を1枚の大きな布に刷り取り、作品を仕上げました。家族で訪れていた奥村葵衣さん(8)＝豊野町＝は「絵を描くのは大好き。膝に描くのは初めてだったけれど楽しかった」、妹の泉美さん(6)は「ドレスを描くのが楽しく、かわいくできた」と笑顔で話しました。



刷り取った作品が手をつなぎ、大きな輪ができました

市と日本郵便株式会社が協定を締結 遠く離れた高齢者の見守りをふるさと納税で



協定書を手にする守田市長と大森英治松橋郵便局長

9/12 市役所で、ふるさと納税での見守りサービスに関する協定を、市と日本郵便株式会社が結びました。これにより郵便局員が高齢者などの家を定期的に訪問し、会話などによって生活を見守る「郵便局のみまもりサービス」が市のふるさと納税返礼品の一つになりました。

これは、市の高齢化率が33%と県平均の30%を上回っていることから、離れて暮らす家族の安心につながることを期待するものです。市が利用する「ふるさとチョイス」、「楽天ふるさと納税」のサイトから申し込むことができます。

地域の行事や隠れた魅力などをレポート 広報特派員レポート 池田 隆幸 特派員 編

上って見える景色は最高

9月3日、不知火町古屋敷区でゴルフ場の西側にある絶景ポイントを訪れました。そこは同区の小林さんが所有する山にあり、同区の平木さんがボランティアで作った手製の階段108段を上った所にありました。

たどり着くと地藏菩薩と素晴らしい眺望がお出迎え。青い空の下には、不知火干拓が広がっていました。お地藏さまは地区の皆さんが世話をされ、拝みに登られているとか。

皆さんも一度訪れてみてはいかがでしょうか。



階段を上ると絶景が待っています

県外からも多くの人が集まった花火大会

永尾神社前に広がる不知火海で実施された不知火海の火まつり花火大会に行ってきました。雨風が強かったため、予定より1日遅れの9月10日に実施されました。

午後8時半から松合新港で打ち上げ花火がスタート。特に呼び物の海上花火には、集まった観客やカメラマンから歓声が沸き起こっていました。同神社の海中鳥居の近くでは、進む船から花火が次々に投げ込まれ、水面には大輪の花が咲いていました。神社下の堤防や波打ち際に集まった多くのカメラマンなどは盛んにシャッターを切っていました。



海上を染めた神秘の花火

前田典洋さんに法務大臣感謝状 長年の人権擁護活動の功績をたたえて

9/14 人権擁護活動の功績が認められた前田典洋さん(68)＝松橋町＝に、法務大臣感謝状の伝達が行われました。前田さんは平成23年4月から7年4カ月にわたり、人権擁護委員として相談や啓発活動に精力的に携わってきた功績が認められ、感謝状が贈られたものです。

守田憲史市長は「長年のご尽力に感謝申し上げます。行政経験や見識を今後も市のために生かしてほしい」と謝辞。前田さんは「退任後も思いやりの心を育て、寄り添う心を持ち、自分なりに社会の役に立ちたい」と話しました。



法務大臣感謝状が贈られた前田典洋さん(中央)

県特別支援学校技能検定 技術を身に付け成長を目指して



真剣な表情で検定を受ける生徒たち

9/15 松橋支援学校で県特別支援学校技能検定が開催されました。これは特別支援学校に在籍する生徒が清掃の技能について専門的評価を受け、将来の自立や就労意欲の向上につなげるもので、今年で3回目。県南エリアの特別支援学校高等部生徒91人が、「テーブル拭き」、「自在ぼうき」など4種目のいずれかを受検し、1～10級の技能認定を受けました。受検した渡邊嵩太さん＝松橋西支援学校2年＝は「練習の成果が出せて去年の4級から3級に上がってうれしかった」と笑顔で話しました。